

プレスリリース

平成13年7月2日  
水産庁漁場資源課  
独立行政法人  
水産総合研究センター  
瀬戸内海区水産研究所

## 瀬戸内海東部カタクチ夏シラス等漁況予報

〔・紀伊水道～備讃瀬戸におけるカタクチ夏シラスの漁況経過及び予報〕

問い合わせ ・水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班  
担当：吉岡 眞一  
連絡先：03-3502-8111 (内線7376)  
直通：03-3501-5098

・独立行政法人水産総合研究センター  
瀬戸内海区水産研究所  
海区産業研究部資源培養研究室  
担当：銭谷 弘  
連絡先：0829-55-3563 (直通)

注)漁況予報の詳細については瀬戸内海区水産研究所へお問い合わせ願います。

# 瀬戸内海東部カタクチ夏シラス等漁況予報

予報対象期間 平成 13 年 7～8 月

平成 13 年 7 月 2 日

## 参画機関

和歌山県農林水産総合技術センタ - 水産試験場  
大阪府立水産試験場  
兵庫県立水産試験場  
岡山県水産試験場  
香川県水産試験場  
徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所  
中央水産研究所  
瀬戸内海区水産研究所  
水産庁増殖推進部漁場資源課

## 瀬戸内海東部カタクチ夏シラス等漁況予報

### カタクチイワシの漁況経過と予報

#### (1) 漁況の経過

平成13年4~6月までの漁況の経過は以下のとおりである。

#### シラス

紀伊水道東部(和歌山県側)での春漁(3~6月)は初漁が3月26日と例年より遅れ、当初の漁獲物は小型のマシラス主体で、平年並の漁であった。4月中旬にマシラスからカタクチシラスにかわり、低調ながら6月まで持続している。

紀伊水道西部(徳島県側)では4~5月中旬まで平年を下回る低調な漁であった。5月下旬は平年を上回ったが、6月上旬以降は昨年を上回る平年並の漁となった。

大阪湾では5月7日が解禁日であったが、漁期当初から極めて低水準な漁であり、前年、平年を下回る漁であった。6月になり内海発生と思われる小型のシラスがみられたこと等により漁況はやや上向きとなった。

播磨灘東部(兵庫県側)では6月1日に漁が始まったが、灘南部の海域に漁場が限られていたこと、内海発生群の加入を待つ等の理由により6月9日~6月11日まで自主休漁とした。再開後は広い海域が漁場となり漁況は休漁前よりも好転した。

播磨灘北西部(岡山県側)では昨年よりも5日早い5月20日から漁が始まり、前年並みの漁獲水準で経過している。6月11日に漁獲されたシラスの体長組成は27mmに1つのモードがあるのみであった。前年は20mm台と40mm台の2つのモードがあったので、今年は早期の発生量が少ない可能性がある。

播磨灘南西部(香川県側)では6月1日に漁が始まった。昨年より少なめに推移している。

#### カタクチイワシ

紀伊水道外域(徳島県側)では5、6月は平年、前年を下回る低調な漁となった。親魚量は少ないと考えられる。

#### (2) 予報

##### シラス(本年夏季発生群、内海+外海由来)

外海発生群が主体の紀伊水道東部(和歌山県側)、紀伊水道西部(徳島県側)では親魚量が少なく、黒潮も潮岬沖で接岸傾向にないことから平年並か平年を下回る漁となるであろう。

大阪湾では外海発生群が春シラスに引き続き漁獲されるものに加えて、内海発生群が漁獲の対象となる。好漁時は、外海発生群が主体である。大阪湾内での卵の採集状況から、内海発生群は平年を上回るものと考えられる。一方、外海発生群については黒潮が潮岬沖で接岸傾向にないことから、シラスの補給環境が良くない。また補給路である紀伊水道和歌山県側での漁が低調に推移していることから判断しても、多くは期待できない。夏季発生群全体としては平年、前年を下回る漁となるであろう。

内海発生群が漁の主体である播磨灘においては、備讃瀬戸からの卵、仔魚の補給の可能性のあるものの、播磨灘での産卵量水準が低く、前年、平年を下回る漁となるであろう。

**小・中羽（本年春・夏季発生群）**

本年春シラス漁の漁況から判断すると、小・中羽対象漁は前年および平年を下回る水準で推移するであろう。